

(別記様式)

平成28年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○SSH2期目の指定のもと、「自然科学科」「普通科」それぞれの特色を踏まえ、生徒一人ひとりの個性や能力を伸長させ、魅力ある学校づくりを一層推進する。</p> <p>○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。</p> <p>○新学習指導要領をふまえた教育活動を推進する。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 本校の特色や新制度の下での普通科の教育理念、またSSH2期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。</p> <p>(2) SSH事業において、「GS BASIC」や「GSロジック」など新しい学校設定科目を実施することができた。また普通科へのSSH事業拡大の中核となる、普通科課題研究の方針を提案し具体化することができた。</p> <p>(3) 新制度の下で入学した学習意欲の高い生徒に対し組織的な教科指導や進路指導を行った結果、入学時の高い学力を維持向上させることができた。</p> <p>(4) 課題を抱える生徒に対して、全教職員の共通理解を図りながら、より丁寧で組織的な支援を行うことで、学校生活や学習継続に着実な成果をあげた。</p> <p>課題</p> <p>(1) 評価の在り方に関して全教員の共通理解を一層図るとともに、生徒の希望進路実現のために、AO・推薦入試や二次試験に向けた組織的な指導や補習の在り方についてさらに工夫する必要がある。</p> <p>(2) 選抜制度の変更3年目となり、学習意欲や進路意識の高い生徒・保護者が年々増加している点を踏まえ、その期待に応えられるよう、教科指導や生徒指導の在り方をさらに工夫する必要がある。</p> <p>(3) 普通科課題研究など、SSH事業の普通科への拡大が一層充実するよう、全校体制で取り組む必要がある。</p> <p>(4) 自転車乗車マナーやスマートフォンの使用に関して継続して生徒への指導を強化するとともに、薬物乱用防止に向けた指導を一層徹底し、あらたに主権者教育の在り方について検討し推進する。</p>	<p>(1) 文武両道・自主自律の校是をより高い次元で実現すべく、限られた時間の中でも部活動の活性化を推進する。</p> <p>(2) 新制度の1期生である新3年生において、これまで以上に進路意識の高い生徒・保護者である点を踏まえ、学力実態に応じた授業における適切な教科指導を工夫する。</p> <p>(3) 評価の在り方について全教員の共通理解を一層図るとともに、全ての生徒の希望進路実現に向け、AO・推薦入試及び二次試験に向けた組織的な指導や補習の在り方についてさらに工夫する。</p> <p>(4) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高め、特に自転車の乗車マナーやスマートフォンの利用に対する継続的な指導を進める。また主権者教育の在り方について検討し推進する。</p> <p>(5) 特別支援教育の充実を図り、課題を抱える生徒に対する支援に組織全体で取り組む。</p> <p>(6) 普通科課題研究など、SSH事業の普通科への拡大が一層充実するよう全校体制で取り組む。</p> <p>(7) 普通科における特色の推進を組織的に行うとともに、SSH事業との連携や京都府総合教育センターとの連携指定を踏まえ、グローバル人材の育成を目指す教育の在り方について検討する。また、引き続き研修旅行の在り方を検討し、普通科の特色化(SS・GP)を一層推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題		
組織・運営	文武両道、自主自律の校是をより高い次元で実現すべく、SSHをはじめとする様々な取り組みを活用しつつ、授業や行事を効果的に計画・運営していく。	各分掌・教科間で綿密な連携を行い、行事等を計画する。校内と校外の状況を的確に把握し、臨機応変に対応する。	B	B	B	部長会・教科主任会等での活発な意見交換を図ることにより、各分掌・教科間での連携を強化し、行事等のスムーズな推進に努めた。また、学校関係者評価委員会等の意見を積極的に学校運営に取り入れ、SSH事業の充実を図った。	
		学校関係者評価委員会やSSH運営指導委員会等、外部の意見を学校運営に生かす。	B				
教育課程の編成と実施	SSH2期目の指定のもと、公立高校の中核校にふさわしい魅力的な教育課程を編成する。	新しい教育課程の編成にあたり、各教科と連携して生徒の進路希望実現に対応したカリキュラムの具体化を行う。各教科科目での指導内容について、「探究力と想像力を備えたグローバル人材の育成」の視点を含めて実施する。	B	B	B	生徒の進路希望状況を視野に、国公立大学対応向けの教育課程の充実に努めた。探究力と創造力の育成を目指したが、各教科科目にその内容を浸透させる方策について不十分な面もあった。探究型融合教科を予定通り実施し、GSサイエンス英語教材の開発など指導内容の充実に努めた。	
		探究型融合教科「グローバルサイエンス(GS)」を深化・進化させる。	B				
学習指導	質の高い学力を育むため、継続的に授業改善を行う。	授業で生徒の学力を伸ばす視点で、研究授業、公開授業、教員研修などを活用して授業改善を図る。シラバスを活用して、自主的で計画的な学習態度の育成を図る。	B	B	B	授業改善を図るため、研究授業、公開授業を実施したが、参加体制については、さらなる工夫が求められる。また、シラバスの活用についても、年度当初に一層の共通認識が必要である。課題研究等の科目において、ルーブリックを活用した評価を実施できたが、観点別評価を全校的に広げるには至らなかった。学校設定科目の研究開発を継続的に行い、着実に成果を上げている。普通科課題研究を学校をあげて実施することができたが、その充実に向けては、さらなる検討が必要である。	
	評価の在り方について、学校全体で共通認識を持ちながら、新しい学習指導要領に対応した評価基準や評価方法の充実をはかる。	各科目の評定について集約して全校的な状況を明らかにし、教員全体の共通理解を図る。観点別評価の完全な実施に向けて検討する。	B				B
	自然科学科だけでなく普通科においても、将来自然科学の分野で国際的に活躍するための基盤となる学力を育成する。	学校設定科目の研究開発の充実発展に組織的に取り組む。 普通科におけるSSH事業の展開に取り組む。とりわけ、普通科課題研究の推進に学校をあげて全力で取り組む。	A B				B
進路指導	新制度の1期生である3年生において、進路意識の高い生徒・保護者である点を踏まえ、学力実態に応じた	今年度国公立大学への進学希望者が飛躍的に増加することから、従来の個別指導中心の体制にかわり、学校をあげて組織的・戦略的な指導体制を構築し二次力向上に努	A	A	A	進路指導部・第3学年部を中心に国公立大学対策としての組織的な二次指導を実施し、二次力	

	進路指導に努める。 確かな学力の育成に向け、自主的・主体的に学習する力を育成する。	める。 教科、分掌の連携のもと、自習室の活用など、全ての生徒の進路実現に資する効果的な補習体制を構築する。また、個別相談、小論文や志望理由書等の組織的指導を充実させる。	A	A	B	を向上させることができた。 全校的な補習体制を構築するとともに、1年で小論文、2年で志望理由書、3年で各種説明会を実施するなど、3年間を見通した希望進路実現のためのキャリア教育を定着させることができた。
	キャリア教育の観点に基づき、生徒のキャリア形成と教職員への啓発に努める。	進路指導部と学年、教科の連携を密接にとり、学年・学科・コースに応じたきめ細やかな進路ガイダンスやキャリアアップ講座を実施する。	B	B		
生徒指導・特別活動等	基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を高揚させ、良識ある人間性を培う。	携帯・スマートフォンの扱いに対する指導を強化するとともに、遅刻及び身だしなみ、あいさつ等に対して、教職員が一体となって指導にあたる。	B	B		学校体制での朝の校門指導等により、遅刻や服装違反をする生徒は激減したが、スマートフォン等の取り扱いや交通安全に対するモラル・マナーについては一層の声かけが必要である。
	人間の尊厳に対する自覚を高め、自他の生命と人権を尊重する態度を育成する。	いじめ・悪ふざけ・中傷など、個人の人権を脅かす行為については、確固とした態度で的確に対処する。	A	A	B	いじめについては大きな問題は発見されなかったが、今後も校内の連携を密にし、早期対応を図る必要がある。
	クラス活動・学校行事・部活動・生徒会活動等の諸活動に積極的に取り組ませて高校生活の充実を図る。	分掌間の連携を緊密にして、学校行事を組織的に運営できるように取り組むとともに、生徒会の活性化によって学校行事のさらなる充実を図る。	B	B		生徒会を中心に学校行事等に対する意識は高く、様々な活動に積極的に取り組めた。
	公職選挙法の改正に伴い、高校生が有権者となる点を踏まえ、適切な指導を行う。	主権者教育の在り方について検討し計画的に推進する。	B	B		地歴公民科を中心に、3年生を主な対象として主権者教育を推進することができた。
	健康・安全	健康面で自己管理する能力を育成し、基本的な生活習慣を確立させる。	生活保健委員会を通じて健康安全への啓蒙活動を行う。大麻・危険ドラッグや性感染症など身近なテーマでの講演会を実施し、高校生として責任ある行動が取れるよう指導する。	B	B	
	心身の健康に課題を抱えた生徒への支援の充実を図る。	教育上、特別な支援を必要とする生徒に対して、教科担当者会議を実施し、共通認識・支援方法の確認を行い、適切な対応をする。特に注意を要する生徒に対する緊急時対応として、校内体制を徹底し、組織全体で取り組む。	A	A	B	適応対策会議の効果的な開催や、個別支援計画の作成など、支援が必要な生徒に対し、実態に応じた適切な対応をとることができた。
	環境美化について関心を持たせ、環境保全を実行できる能力を育成する。	生徒美化委員会活動を中心に環境美化活動を行う。紙ゴミ回収方法の変更に伴い、ゴミの分別と減量化を徹底するため、ゴミ回収所での分別作業をクラス単位で実施する。	B	B		紙ゴミの持ち帰り指導により、ゴミの分別と減量化を推進できた。次年度の分別方法の一部変更に対しても、指導を徹底する必要がある。
読書指導	図書館利用を促進するとともに、書物や新聞等を積極的に読むように読	年間を通して読書の啓発に努めるとともに、「読書月間」を設けて読書を推進する。また使用方法を周知し、調べ	B	B		「読書月間」等様々な取り組みにより、積極的な図書館利用の

	書指導を充実させる。 芸能鑑賞の内容を充実し、質の高いものを生徒に提供する。	学習に資するとともに一層の図書館利用につなげる。 1年生古典芸能、2・3年生演劇と、芸術鑑賞の機会を生徒に与える。	B	B	B	状況が見られる。 落語・演劇ともに評価は高く、文化祭の演劇にも効果的であった。
情報管理	校内のICT教育環境を整備し、教職員のICT利用の環境整備と支援を行う。	ICT教育環境を計画的にデザインし、情報処理室以外にも環境の整備を支援し、ICTの教育利用を推進する。校内のサーバやコンピュータ環境の整備と安定運用を図る。	B	B	B	ICTの教育利用の便を図るため整備に取り組み、大きな問題なく安定運用することができた。
広報活動	普通科・自然科学科の特色に関する広報活動の充実を図り、意欲を持つ生徒の志願に繋げる。	本校が行う学校説明会等を充実させるとともに、中学校訪問・塾訪問、府教委や塾主催説明会への積極的参加を通じて、中学生保護者の本校教育に対する理解を深める。	A	B	B	学校説明会では生徒インタビューを企画するなど、満足度の高い内容を提供し、本校の魅力をアピールできた。また依頼を受けた外部説明会はすべて出席し、個別相談を中心に情報提供を行った。広報資料は毎年改善を加えているが、ホームページ、DVD等を一層充実させたい。
		ホームページ、広報紙、DVD等を通じて情報発信に努めるとともに、魅力ある「学校案内」や「研究紀要」の作成を行う。 課題研究発表会、入試説明会、SSH報告会などを通してSSHの成果を公表する。	B			
家庭・地域社会との連携	家庭・地域社会との連携を密にし、学校に対する信頼を確立する。	学校と保護者との連携を緊密にとるとともに、各種保護者説明会、学年だより、PTA広報紙「きんがわら」への作成協力、「お知らせメール」等を活用した情報発信を積極的に行い、本校の教育活動に対する保護者の理解を深める。	B	B	B	各種保護者説明会には多数の保護者に参加していただいた。情報発信を心がけたが、今後とも、一層保護者とのコミュニケーションの場を積極的に持ち、相互理解を深める必要がある。また理科実験教室などには、多数の方々の参加があった。
		天体観測会や理科実験教室などを通して、家庭や地域社会にSSHの活動に対する理解を深める。	B			

評価の基準 A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の充実ぶりやいじめがない学校生活の状況は非常に素晴らしい。今後入学者学力層の更なる変化も視野に入れ、生徒の希望進路の実現に一層の尽力を期待するとともに、大学卒業後も見据えた進路指導をお願いしたい。 限られた予算の中で施設設備の改善によく取り組んでいると感じるが、引き続き学校美化に向けた取組の推進に努めてもらいたい。
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道・自主自律の校訓を大切にしつつ、生徒層が「変革期」に入った点を踏まえ、一層の授業改善に取り組むとともに、SSH事業と部活動、進学補習等とのバランスに配慮し、生徒の総合力を更に伸ばせるよう全力をあげる。 今年度最大の課題であったSSH事業の「普通科への深化」については、普通科課題研究を学校をあげて実施するなど一定の成果をあげたが、その内容の充実に向けては、更なる検討を重ねる。 国公立大学対策として組織的な指導を実施し、国公立大学現役合格数を昨年度から倍増させることができたが、今年度の反省点を詳細に分析し、次年度は一層の二次力向上をはかり生徒の希望進路実現に 대응する。 生徒の規範意識を高めるため、スマートフォン等の適切な使用や自転車の法令・マナー遵守等に関する指導を継続する。また薬物乱用防止に向けた指導を一層徹底するとともに、個別支援計画や適応対策会議を活用して支援の必要な生徒に対しての指導を継続する。
-----------------------	---